

# 障がい者スポーツ推進プロジェクト しょうがいスポーツ リンケージくまもと

NPO法人A-lifeなんかん 事務局長 西田由実

(本事業コーディネーター)



# 地域の課題に対応した障害者スポーツ環境の整備

## ◆目的

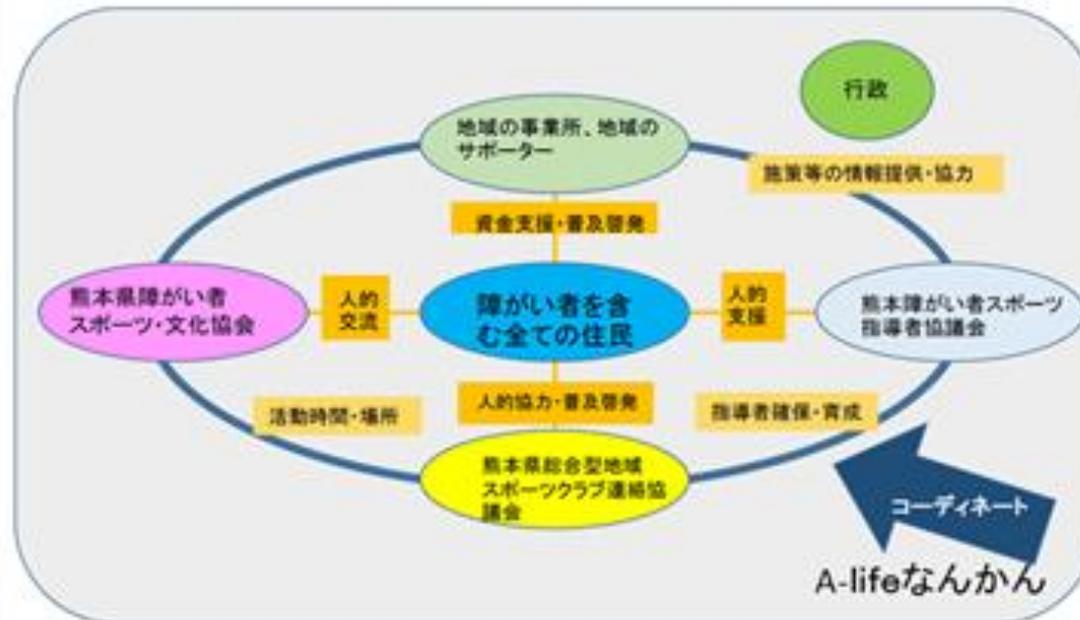
障がい者スポーツを含めた生涯にわたって全ての人々がスポーツを行うことができる「場」を地域につくり定着させること

## ◆事業概要

- ・前年度設立したコンソーシアム「しょうがいスポーツリンケージくまもと」の基盤づくり
  - ・地域における障がい者スポーツ実施環境のモデル構築
- ⇒機関団体であるNPO法人A-lifeなんかんの所在地【南関町】と【熊本県下全域】を対象として実施。

## 《 しょうがいスポーツリンケージくまもと 》

【全ての人の運動・スポーツを通じた生涯に渡る体づくり・生きがいづくり】



## 障がい者スポーツコンソーシアム 「しょうがいスポーツリンケージくまもと」設立2年目

### ◆目的

構成団体の連携の基盤づくりを進め、障害者が身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備

- ・事業の適合性や各事業の取り組みの進捗状況の確認
- ・成果と課題改善点の協議並びに共有

### ◆構成団体(①②③は基幹団体)

長①熊本障がい者スポーツ指導者協議会

副②熊本県障害者スポーツ・文化協会

③熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

- ・南関町(社会体育・福祉・学校)
  - ・南関町社会福祉協議会
  - ・九州ルーテル学院大学(研究者)
  - ・久留米大学(アドバイザー)
  - ・NPO法人A-lifeなんかん(代表機関:事務局)
- ※西田は本事業コーディネーター



- 事業を進める上で、構成員の特徴を活かし相談できる関係性が醸成されてきた。
- 第3回会議にはオブザーバーとして県体育保健課と県障がい者支援課から出席。年度当初から相談にも応じていただき県事業にも参画できた。



# ボランティアの育成／ガイドランナー講習会

## ◆高校生向けオンライン講演会 8/17

- ・会場 玉名工業高等学校
- ・参加者 陸上部・生徒会など
- ・講師 熊澤典良氏 / 鹿児島大学大学院理工学研究科 機械工学専攻 准教授

・目的 競技者・指導者・支援者・研究者という多面的なスポーツアプローチの講演会を工業系の高等学校生を対象に実施。多面的な障がい者スポーツへの関わりの啓発とボランティアへの志向性を高める一方、学生自らの学びが障がい者スポーツに寄与する将来性を示唆するなどキャリア教育も行う。



## ◆一般向け養成講習会

- ・県内3地域
  - ①県北7/23(講義のみオンライン)
  - ②県央8/29(対面)
  - ③県南1/22(対面)
- ・講師 柴尾源太氏 右松奈緒美氏  
熊本障がい者スポーツ指導者協議会

・目的 ガイドランナーの養成を図るとともに、障害者スポーツの理解促進を図り、いつでも誰でもがスポーツに親しむ環境を創出する。

- 実際の動作を体験する講習なのでコロナ感染症の状況に左右された。
- 養成講習会の形で募集するとハードルが高いと感じられる傾向にある。
- 視覚障害者理解が深まることと、コミュニケーション能力の研修としても団体・組織での体験は効果的あり、普及が見込める。



## 障がい者自らのスポーツボランティア参画

◆目的 外出の難しい障がい当事者がスポーツを支える立場としてICT機器利用しスポーツイベント等に携わるきっかけをつくる。外出の難しい障がい当事者がスポーツを支える立場としてICT機器利用しスポーツイベント等に携わるきっかけをつくる。

◆実施協力

・うすま苑／南関町

◆システム開発

株式会社オリィ研究所(東京都)



### 【南関町福祉スポーツ大会への参画】

・施設内からOriHimeを利用し実施

①選手宣誓

②同施設から現地出場した選手を応援





## 事業を円滑に進めるため地域密着の調査研究

### ◆目的

障がい者の身近な地域におけるスポーツ施設の利用促進と利用する上での課題を明らかにする。

●県内の公共体育施設のバリアフリー化と併せて、設置者の障がい当事者の施設利用促進に対する意識も調査するもの。

### ※参考：2020年実施

- ①熊本県内総合型地域SCに向けた現況とニーズ調査研究
  - ②南関町内の生涯スポーツとしての障害者スポーツ及びユニバーサルスポーツのニーズ調査研究
- ・学校対象・障がい当事者の保護者対象

### ◆調査研究内容

熊本県内における公共の社会体育施設(スポーツ施設)における障がい者の利用等のアンケート【県内45市町村】

### ◆研究者

九州ルーテル学院大学 永野典詞氏

まもなく  
最終報告書完成



## ①総合型地域スポーツクラブにおける障がい者参加型スポーツプログラムの創設・実施

## ②障がい者スポーツの理解促進に向けた広報事業

- ・総合型地域スポーツクラブ県内クラブ交流大会での実施
- ・地域での理解促進事業 児童クラブ等での体験活動

## ③教員に対する障がい者スポーツのノウハウの普及

- ・小中学校におけるパラリンピック競技種目等の導入・試行・実施





# ①総合型地域スポーツクラブにおける障がい者参加型スポーツプログラムの創設・実施

## ◆目的

クラブを主体とした障がい者スポーツ推進が可能となるよう、障がい者スポーツ指導者協議会等から教室の運営についてのアドバイスや指導者派遣を行い、地域に総合型SCを基盤とした協働のきっかけをつくる

## ◆事業内容（対象：4地区8クラブ）

- ・新規希望クラブへのヒアリング シートにて実施  
⇒オンラインでの打ち合わせ・勉強会
- ・昨年からの継続クラブ6クラブ  
⇒クラブの地域特性に沿った体験会講習会実施

- 知らないこと知るべきこと深めることは何なのかを知る
- 障がい者スポーツをクラブの特色とするため、連携方法の検討。



継続のクラブには今後も地域での推進を担う立場  
＜地域コーディネータ＞として地元団体との調整や活動報告作成を依頼



## ②障がい者スポーツの理解促進に向けた広報事業

### ◆実施方法

各事業の特性に応じて、障がい者スポーツ指導者協議会から指導者を派遣。

### ◆事業内容

①熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会「県内クラブ交流大会」でのフライングディスク大会実施【11月】

⇒メイン会場(豪雨災害被災地域)・サテライト会場(南関町)・分散日開催(4会場)で統一種目として実施。1つの会場に障がい者当事者も参加された。

②児童クラブ等での障がい者スポーツ体験活動【1カ所2時間ずつ／8～11月】

⇒南関町・和水町の4カ所の児童クラブ  
長洲町4小学校の放課後子ども教室



●障がい者スポーツはクラブでも気軽に取り組めるもの、障がいの有無によらず一緒に楽しめるものであることが理解された。

●パラリンピック前後で子ども達の興味関心を経験として結ぶことができた。



### ③教員に対する障がい者スポーツのノウハウの普及

#### ◆目的

南関町を中心とする小中学校特別支援学級授業においてパラリンピック競技種目等を試行し、教員に障がい者スポーツのノウハウを普及する

#### ◆事業内容

南関町はコンソーシアム構成員を核として、和水町は教育委員会を通じて希望する学校で実施。

#### ①小中学校での種目体験授業【10・11月】

⇒南関町(小学校2・中学校1)

和水町(小学校1)

※実施種目 ボッチャ・風船バレーボール・フットベースボール・フライングディスク

#### ②担当教員等を対象とした研修会【8月】

⇒和水町教育委員会主催研修会として実施。

※当初車いすバスケット体験の予定が、コロナ感染症の影響で講習のみオンライン開催。



●事前事後学習を自主的に実施し体系的に取り組まれた学校が多かった

＜体験後の教員の感想＞

- ①ルール等から体育授業に生かせるポイントを多く学んだ。
- ②体育は交流授業で行うことが多く、支援学級の児童生徒だけの場合のびのびとした様子や新たな一面が発見できた。

# 障がい者スポーツの理解促進 に向けた広報事業

## 【SNSの活用】

障がい者スポーツコンソーシアム  
しょうがいスポーツ  
リンケージくまもと

公式Facebookは  
右QRコードから



# IT技術を取り入れスポーツ参画機会の創出 ～新しい生活様式を踏まえたスポーツ参画～

## ◆目的

障がい者福祉施設等内において、リハビリを目的としてeスポーツを介したスポーツ体験を試験的に導入し、外出・移動を伴わず障がい当事者に新しい形のスポーツ参加機会を設ける。加えて、その発展として施設対抗イベントを開催。

## ◆実施協力＜2施設＞

・陽光学園(南関町)・愛隣館(山鹿市)  
⇒各8回体験 ※最終回は対抗イベント

## ◆システム開発と運営:

株式会社ハッピーブレイン(熊本県)



- 障がい者らの余暇支援を目的に理学療法士・作業療法士が起業した同社の技術を採用。障がい者個々の残された機能を最大限に活かす装置をカスタマイズしリハビリの効果が高い。
- 体験者の施設側からは生活意欲が向上したと感想あり。

## ◆対抗イベント【10/23】～県民スポーツの日～ 【総合型アダプテッドeスポーツイベント】

⇒2施設とメイン会場をオンラインで繋ぎ、障がい者と小学生が対決！



## イベントによる障がい者スポーツの理解促進 しょうがいスポーツシンポジウム

◆目的 障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツ関係者の意見交換の場を設け、インターネットで公開することで全国に向けて障がい者スポーツの可能性を発信する。

2つのテーマに沿って進行

- ①障がい者スポーツ実施における障壁や課題～過去から現在
- ②地域スポーツとしての障害者スポーツの展開～将来に向けて

それぞれの特性を活かし融合・共存する<ごちゃまぜになる>ことで発展が期待できることを確認した。

- ・日時 2022年1月23日(日) 13-15時
- ・会場 熊本城ホール 会議室  
(会場参加可のハイブリッド開催)

◆スポーツ庁障がい者スポーツ政策説明

◆シンポジウム登壇者

- ・パラリンピアン浦田理恵氏(ゴールボール)
- ・熊本障がい者スポーツ指導者協議会会長
- ・NPO法人北九州スポーツクラブACE
- ・eスポーツ支援事業者 (株)ハッピーブレイン
- ・久留米大学 行實鉄平氏(ファシリテータ)

◆本シンポジウムは  
YouTubeで公開中。

右QRコード

A-lifeなんかん

YouTubeチャンネルから





# 事業間の連結と組織間の共創が重要

「前年度比4クラブ1支部増+α」

## ① マッチングモデル事業

障がい者スポーツ指導者  
協議会



総合型地域  
スポーツクラブ連絡協議会

調査研究



② 単一自治体での実践を全県にフィードバック

◆調査や導入の困難さや成功手法等を蓄積し、他自治体(他クラブ)で運用する際にそこから得られたノウハウを活かす

●指導者情報の団体間での共有  
＜指導者協議会＞  
各支部の指導者のネットワークの強化  
＜総合型地域スポーツクラブ＞  
障がい者スポーツの自クラブ導入検討の機会

◆障害者スポーツ・文化協会◆  
障がい者スポーツ実施者の拡大  
➔アスリート人材の発掘